

# 詰まり、狭窄を解消

## 人工透析助けるシャントPTA

人工透析で一般的な血液透析に、血管治療を専門とする循環器内科の技術を応用する治療法が、県内で広まりつつある。血液透析に必要な「シャント」の不具合を改善する治療で、成功率が高く、痛みも少ないことが特徴だ。前橋市の県済生会前橋病院循環器内科は、古作クリニック（伊勢崎市）など透析治療を手掛ける病院と連携、この治療法の普及に努めている。

## 手術は日帰りでOK

血液透析を受けるには、手首付近などに動脈と静脈をつなげるシャントを造らなければならぬ。しかし、長期間治療を続けていると、血栓が詰まったり血液の通り道が狭くなったりする「シャント不全」に陥りやすい。シャントが使えなくなると、他の部位に新たにシャントを造る再手術を余儀なくされる。

このため県済生会前橋病院では、シャントの詰まりや狭窄を解消する治療法として「シャント経皮的血管形成術（PTA）」を積極的に採用している。血管の扱いに慣れている循環器内科の医師が、これまで動脈硬化の治療などに用いていた技術を応用する形で、透析患者のシャントのトラブルに対応している。

### 患者の痛み減

詰まりや狭窄を早期に解消することで、シャント

トをより長持ちさせることができ、長期間にわたって安全に透析治療を受けられることにつながる。

シャント不全ではバルーン治療を行うのが一般的だが、血管を広げる際に激しい痛みが伴う問題点があり、患者の負担が大きい。同科でのシャントPTAは手術を日帰りで受けることができ、痛みも少ない。症例数は年々増加。昨年は過去最多の160例の手術を行い、成功率は98%だった。

### 医療機関と連携

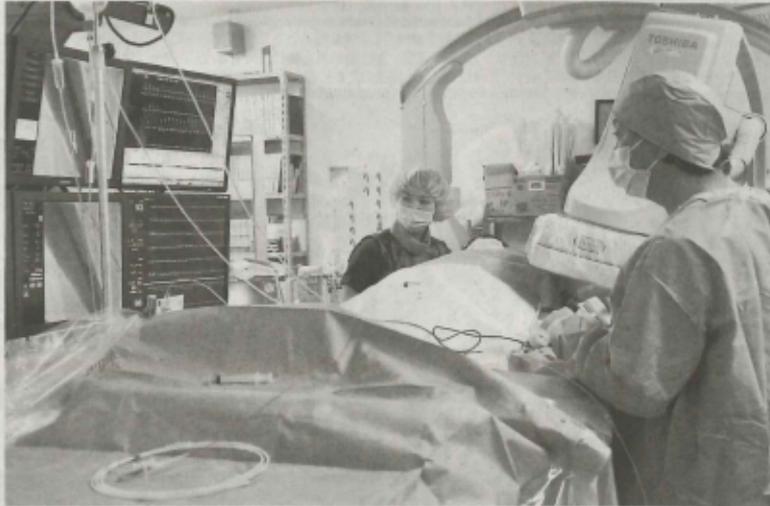
同病院は古作クリニック

クとさるきクリニック

（前橋市）を中心に連携。両クリニックで血液透析を受けている患者を受け入れてきたが、徐々に県内の他の医療機関との連携を広げている。

同病院循環器内科の中野明彦代表部長は、シャントPTAのニーズが今後も高まると指摘。「透析患者の命綱となるシャントを安心してより長期的に使ってもらうために、この痛みのない治療法を広めていきたい。もし詰まってしまった場合には、時間がたつと難しくなるのでなるべく早く連絡してほしい」と話している。

問い合わせは同病院地域連携課（☎027・252・6011）へ。



シャントPTA手術を行う中野代表部長（右）



中野明彦代表部長

## 慢性腎臓病 予防が大切

ら、県はCKD予防の大切さを訴

慢性腎臓病（CKD）は、自覚症状がないまま重症化する恐れがあり、一度、透析治療が必要になると生涯にわたって続けなければならない。体力的な負担が大きく医療費も高額になることから、

慢性腎臓病（CKD）は、自覚症状がないまま重症化する恐れがあり、一度、透析治療が必要に

慢性腎臓病（CKD）は、自覚症状がないまま重症化する恐れがあり、一度、透析治療が必要に

日本透析医学会のまとめによると、2015年の全国の透析患者数は約32万5千人だった。新たに透析治療を始めた人は3万9462人で、調査開始以来初めて3万9千人を超えた。このうち県内の透析患者数は計5948人。

慢性腎臓病（CKD）は、自覚症状がないまま重症化する恐れがあり、一度、透析治療が必要に